

### 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月28日

#### 【評価実施概要】

事業所番号	1271202770		
法人名	アイ・ケア株式会社		
事業所名	グループホームあいあい松戸		
所在地	千葉県松戸市松戸 8 9 6 - 3 (電 話) 047-364-1117		
評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	我孫子市本町 3 - 7 - 1 0		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年10月28日

#### 【情報提供票より】 (平成20年8月31日事業所記入)

##### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <b>平成</b> 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 14.2 人

##### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	1・2 階部分

##### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 20,000 円	
敷 金	有 ( 円) <b>無</b>	有りの場合償却の有無	<b>有</b> / 無	
保証金の有無(入居一時金含む)	<b>有</b> (300,000 円) 無			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,667 円	

##### (4) 利用者の概要 ( 8 月31日現在 )

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	10 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	70 歳	最高	99 歳

##### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人一条会病院、医療法人けやきクリニック、ラビット歯科
---------	-------------------------------

#### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあいあい松戸は、シェル石油の埼玉県の大手販売特約店、イハングループの「アイ・ケア株」が平成17年10月に松戸市内に設立した新しい施設である。併設のデイサービスの大浴場やホール等、広い施設を利用してゆとりのあるサービスを提供するとともに、午後のフリータイムにはデイサービスを利用することが出来、利用者間の交流にも繋がっている。グループホーム内には自由に参加できるカルチャールームがあり、料理・工芸・音楽等のクラブ活動の部屋として利用されている。家庭菜園も併設し園芸のクラブ活動も用意され、入居者が好みに応じて居心地良く過ごせるようセンター長以下熱意ある職員が意欲的に取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価を受けるにあたり、センター長より全職員に事前説明を行い、自己評価をまとめる過程で22項目に及ぶ課題をリストアップした。10月のスタッフ会議では自己評価での気づきをテーマとする等積極的な取組みが見られる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の頻度で、自治会長、地域包括支援センター、民生委員等の参加を得て運営推進会議を開催し、グループホームの運営状況等を報告するとともに意見交換を行なっている。その際出席メンバーに職員の態度やマナー等についての簡単なアンケートをお願いし、運営の参考にしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会訪問時には積極的に管理者が顔を出し、コミュニケーションを深めてご希望に添えるように心がけている。毎月の請求書送付時に「あいあい通信」、「預かり金明細」、利用者の詳細な「状態報告書」を作成し、家族に同封している。又ホームページ上にホームの諸行事や生活風景等を写真を多用して都度公開し、家族からも好評である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホーム設立当初は設立以前のしがらみから地域との軋轢が強かったが、毎週職員が近隣の清掃を行なったり、休日駐車場を融通し合う等の地道な日常活動の継続により良好な関係を築いている。自治会主催の夏祭り等の行事に参加したり、あいあい松戸夏祭りには地域の方を多数招待する等積極的に交流を図っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者・職員で議論の上6項目の基本理念を作り上げ、それらを元に2項目を「あいあい松戸基本理念」として制定している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念及び運営方針をスタッフルーム前に掲示するとともに、会議でも取上げて職員の理解を深めている。地域福祉推進への貢献の理念は地域の清掃や、介護教室開催の検討等日々の実践の中に生かされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会主催の夏祭りに参加したり、あいあい松戸夏祭りには地域の方を多数招待する等積極的に交流している。毎週月曜日、職員が地域の清掃活動を行う等の地道な日常活動を継続して、地域との良好な関係を作っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回はじめての外部評価であるが、職員全員に事前説明を行い、自己評価をまとめる過程で22項目に及ぶ課題をリストアップした。10月のスタッフ会議では自己評価での気づきをテーマとする等意欲的な取り組みが見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で、自治会長、地域包括支援センター、民生委員等の参加を得て運営推進会議を開催し、グループホームの運営状況等について報告し意見交換を行なっている。次の運営推進会議では地域住民に向けた「介護者教室」の開催を議題に予定している。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との連携は諸般の事情であまりとれていない。介護相談員の派遣を要請しているが、まだ実現していない。	○	市の担当窓口毎月「あいあい通信」を届けたり、介護相談員の派遣を継続して要請し、市町村とともに質の向上に取り組んでほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書送付時に「あいあい通信」「預かり金明細」、利用者の詳細な「状態報告書」を家族に同封している。又ホームページやブログ上にホームの諸行事や生活風景等を写真を多用して都度公開し、家族からも好評である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族の面会訪問時には必ず顔を合わせるように配慮しており、積極的に意見を求めている。意見箱を設置しているが利用は少ない。	○	グループホームとして、利用者アンケートの定期実施を検討されており、期待したい。今回の外部評価のアンケートには利用者、家族の気持や意見が数多く表出しているので、背景を読み取って運営に反映願いたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内での異動は行なっていないが、離職者を抑える対応として、新人教育や社内研修を徹底している。また掲示板に新人職員の写真や紹介を掲示したり、あいあい通信やホームページで家族等にも紹介し、職員交代によるダメージを防ぐ努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は年初に年間研修計画（テーマ・開催日）を作成し、毎月1講座を2回に分けて1時間程度の社内研修会を実施している。さらにユニット毎に3ヶ月に1度、研修を実施し、職員の育成に力を注いでいる。	○	運営者はさらに職員に社外研修への参加の機会を作り、新たな知識を職員間で共有することができるよう、一層職員の育成に取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市のグループホーム連絡協議会に加入し、開催されるセミナー等に参加し活動しているが頻度は多くない。むしろ法人内の他のグループホームとの合同研修会の場を活用し、職員の交流による相互研修の場としている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のほとんどは入居前、併設デイサービスの利用者であり、徐々に環境に慣れてからの入居となることが多い。希望者は体験入居を利用し、本人の意向を最優先に納得して入居している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に家事や調理など利用者から学びながら生活している。職員は利用者の人生経験や世代による考え方の違いを新鮮だと受け止めており、支え合う良い関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なアセスメントは6ヶ月に1回行う他、家族の訪問時には必ず管理者が希望や意向を確認している。職員からの報告や連絡ノートからの利用者の情報をもとに管理者会議を週1回実施し、利用者の思いや意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望や意向をもとに居室担当職員と話し合い、業務日誌や連絡ノートを活用して介護計画を作成している。介護計画については作成時家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化に対応して随時話し合い、会議や申し送り等で職員間の情報は共有している。介護計画は6ヶ月に一度の見直しであるが、状況に応じて見直ししている。	○	利用者の体調や生活レベルは変化しやすい状況にある。利用者の変化に合わせて随時介護計画の見直しをすることは重要である。定期的な見直しについてはもう少し短期間に行われることが適切かと思われる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスに2名の利用者が週3回程度利用している。入浴はグループホーム内にある浴室での個浴のほか、デイサービスの大浴場を利用し利用者から好評を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医受診には家族が対応している。その際は利用者の状況報告書を交付して連携をとっている。グループホーム内の定期的受診では家族が立ち会えない利用者には職員が対応し、家族宛に受診状況を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や終末期における利用者家族の意向を確認している。開設から2名の看取りを行った。職場内にターミナル委員会を設け、マニュアルを作成し情報を共有している。家族や医師からの強い希望とバックアップのもとに実践している	○	職員は真摯にターミナルケアへ取り組んでいる。さらにターミナルケアについての指針や終末期の利用者の状況に応じ家族への具体的な説明方法や、合意の取り方などにつき、医師の協力を得て検討いただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入社時、個人情報保護に関する誓約書を作成している。また毎年、職員研修計画にプライバシー研修を取り入れ、徹底している。利用者への言葉かけや入浴、排泄介助についても留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴など時間を設定していることもあるが、午後は利用者のフリータイムとしてデイサービスへの参加、レクリエーションや各クラブへの参加等本人の意志で選択できるように図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせ食事準備、片付け等職員と共に行っている。月ごとに寿司の日、刺身の日を設定し喜ばれている。また季節ごとにバイキング、バーベキュー、そうめん流しなどアクティビティーも合わせて楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は固定している。基本的には利用者の生活習慣を考慮し、就寝前に毎日入浴している。個浴、特殊浴のほかデイサービスの大浴場を希望する利用者が多く、満足度も高い。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者にとって犬のはなこ(飼い犬)は癒しとなっており、職員と共に朝夕散歩に出かけている。施設内には美容室があり、希望に合わせて利用することができる。園芸、料理、工芸、音楽などクラブ活動に自由に参加することができる。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により毎日の散歩や職員と共にマンツーマンで買い物に出かけている。車を使用しての遠出は月1回、家族にも参加を呼びかけて計画的に実施されており、利用者の楽しみとなっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当グループホームの前には国道があり危険が伴う為、エレベーターは介助員の操作とし、門扉には鍵がかかっている。外階段から庭には自由に出入られるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災についての避難訓練は年3回実施し、内2回は消防署の協力を得ている。日中、夜間それぞれ想定して行っており、開催時には近隣の住民の方にもお知らせしている。地震を想定した訓練はしていない。	○	施設として2階からは外階段、滑り台等の設備があり、避難訓練も積極的に実施されているが、今後は地震を想定した訓練についても検討をお願いしたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分については各利用者の目標値を設定し、職員は摂取支援に努めている。栄養バランスについては定期的な管理栄養士の指導のもとに一日1300kcalを基本に献立を作成し、各利用者の毎食の摂取量を記録し把握している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室の中心にリビングや食堂を配置しており、キッチン是对面式で職員と利用者はコミュニケーションがとりやすいシンプルな空間設計となっている。リビングや廊下の壁に月毎に飾りや写真が掲示されており、親しみやすい雰囲気となっている。トイレ表示は分かりやすさの工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の家具は基本的にはグループホームで用意しているが、利用者によっては箆笥や仏壇を持ち込んだり、自分で洗濯した衣類を干したり、それぞれが居心地よく過ごすことができる工夫がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。